

すすきの
ワイド

飲んで食べて驚いて…

すすきの入口ともいえる「すすきの交差点」。その「顔」となった「ココノスキノ」も好調のようだ。その一方で、消えてゆく「顔」もある。本誌恒例「2024夏のすすきの」でファンタスティックな情報を一挙公開！

「すすきのゼロ番」 「スキノアパート」

「地」で知られる 「66年の歴史に幕

1

営は得手ではありませ
んから店を貸す方に回
りました」
〈高橋 ゼロ番地地下
の三十五軒の集団化は
みごとに成功した上、



▲レトロなたたずまいのビルは、すすきの中心部で異彩を放っている

横並びがあるならタテ
並びもあるだろうとい
う着想から今日の飲食
店ビルの発展へとつな
がった。スキノのイ
メージを変える大仕事

公団が発足したのは、
ビルができる3年前の
1955（昭和30）年。
現在、公団によるまち
づくりの歴史を紹介す
るURのCMが放映さ
れているが、そのなか
で「団地での暮らしは
当時の最先端でした」
というフレーズが登場
する。その言葉通り、
「スキノアパート」
（URでの正式名称は
薄野市街地住宅）も、
人々が憧れを抱くモダ
ンな住居だったのだ。
5月以降、管理者は
札幌振興公社に移行し
たが、長らく「スキノ
アパート」を担当し
てきたUR都市機構東
日本賃貸住宅本部北海
道エリア経営センター
の鎌田修さんにお話を
伺った。アパート閉鎖

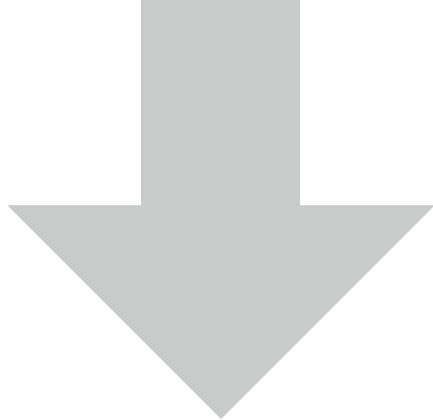
1958（昭和33）
年にビルが建つ以前、
この場所は正時代に
創設された公設市場が
賑わいをみせていた。
その市場は1階に入り、
2階から5階部分が、
UR都市機構の前身で
ある日本住宅公団が管
理する「スキノアパ
ート」となった。

飲み屋街が形成され
る以前、地下には美容
理髪店などの店舗が入
っていた。主に地下部
分を指す、おなじみの
「ゼロ番地」の呼称に
関しては、その由来は
諸説あるが、命名者は
北海道振興の創業者で、
すすきの経済の活性化
に尽力した久末鐵男氏

時代の先端をゆく住居

煌びやかなネオンが輝くすすきの中心部の一角に、レトロムードを漂わせる異色のビルが建っている。住所は南6西4。地下は「すすきのゼロ番地」と呼ばれる飲み屋街、1階は昔ながらの「すすきの市場」となっており、どちらも観光客こそ少ないが「この場所の雰囲気が好き」という地元客に愛され続けている。
だが、今年2月末に閉鎖となった、2階から5階の通称「スキノアパート」に足を踏み入れたことがある人は少ないだろう。完成から66年、モダン住宅の走りといわれたアパートの歴史を振り返ってみよう。（フリーライター・内海達志）

だ。
芥川賞作家・高橋揆
一郎氏との対談（本誌
1992年2月号掲
載）で、このように話
している。
〈高橋 貸しビルのは
しりはスキノゼロ番
地でしたか〉〈久末
そうでしたね。ゼロ番
地の発想は昭和三十年
ごろ新宿西口の屋台群
を見たのがもとなっ
ています。飲み屋の経



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)